

れの家おくだりたりか、人々ダビデに告てウリヤ其家にくだり至らすといひければダビデウリヤにいひける、汝の旅路をなして來れるに、おらかや何故か自己の家にくだりさるや、ウリヤダビデにいひける、ハ櫃とイラエルの小屋の中に住まりわが主ヨアブが主の僕ハ野の末に陣を取るに我いので、わが家おゆきて食ひ飲しまた妻と寝べけんや、汝い生また汝の靈ハ悟く我此事をなさじ、ダビデウリヤかい、今日も此かどまされ明日我汝を去まめん、とウリヤ其日、次の日ニルサレムへおとよどり、ダビデかれを召て其家へお食ひ飲せまめ、ダビデかれを辭せめたり、晩わいたりて彼出て其床、か其主の僕と共ニ、擁たりされど、おれの家に入くだり、ゆかりき、朝おおよびてダビデヨアブへの書を認めて之をウリヤの手よりて遺れり、ダビデ其書に書てい、とく汝らウリヤを烈しき戰の先鋒にいたして、かきの後より退きて彼をして戰死せしめよ、是に於いてヨアブ城邑を窺ひてウリヤを、其勇士の居る所に置り、城邑の人出てヨアブと戰ひしかば、ダビデの僕の中の數人、仆れへテ人ウリヤも死り、ヨアブ人をつかして軍の事を悉くダビデに告げまひ、ヨアブ其使者に命じていひける、汝の軍の事を皆王お語り終じ、と王もし怒りを發して、汝お汝らなを、戰をんとて城邑お近つきしや、汝ら石壇の上より射ること、を知らざりしや、エラセラの子アベメレクを、撃し者、誰なるや、一人の婦が石壇の上より、磨の上石を投て彼を、ラベクに殺せしに、おら亦や、何ぞ汝ら城垣お近つきしや、と言は、汝言べし、汝の僕へテ人ウリヤも、死り、と、使者ゆきてダビデに、いたり、ヨアブが遣したる、と、このことを、よく告げたり、使者ダビデにいひける、敵我價に手強、うしが城、外かい、い、我價おいたり、しかば、我價、これお追りて、門の入口にまで、いたれり、時、お射手の者、城垣の上より、汝の僕を射たり、けれ、バ、王の僕、の、或者、死、亦、汝の僕、へ、テ、人、ウ、リ、マ、で、い、た、れ、り、

ノ母七〇二六

ノ母九〇三三

ノ母二〇九

ノ母六〇三

ノ母五〇三

ノ母四〇三

ノ母三〇九

ノ母二〇九

ノ母一〇九

ノ母〇〇九

ノ母〇〇九

ノ母〇〇九

ヤも死りと、ダビデ使者にいひける、と、斯汝ヨアブを、言べし、此事を憂ふる、かかれ、打、劍、ハ、此、をも、彼、をも、同、じ、く、殺、す、な、り、強、く、城、邑、を、攻、て、戰、ひ、之、を、陥、る、べ、し、と、汝、か、く、ヨ、ア、ブ、を、勵、ま、す、べ、し、ウ、リ、ヤ、の、妻、其、夫、ウ、リ、ヤ、の、死、た、る、を、聞、て、主、の、た、め、に、悲、哀、り、其、喪、の、過、じ、時、ダ、ビ、デ、人、を、遣、は、し、て、か、れ、を、お、れ、の、家、に、召、し、る、彼、す、な、は、ち、ろ、う、の、妻、と、な、り、て、男、子、を、生、り、但、し、ダ、ビ、デ、の、爲、た、る、此、事、ハ、エ、ホ、バ、の、自、お、惡、か、り、き、
第十三節 エホバナタンをダビデお遣したまへ、彼ダビデお至りて、これおひける、ハ、一、の、邑、に、二、箇、の、人、お、り、ハ、一、の、富、て、一、ハ、貧、し、其、富、者、ハ、甚、だ、多、く、の、羊、と、牛、を、有、り、さ、れ、ど、貧、者、ハ、唯、自、己、の、買、て、育、て、た、る、一、の、小、き、牧、羔、の、外、ハ、何、を、も、有、ざ、り、き、其、牧、羔、彼、お、よ、び、か、れ、の、子、女、と、し、も、お、生、長、ち、か、れ、の、食、物、を、食、ひ、う、れ、の、權、に、飲、み、た、彼、の、懷、お、寝、て、彼、に、ハ、女、子、の、お、と、く、お、り、き、時、に、一、人、の、旅、人、其、富、者、の、人、の、許、に、來、り、け、る、が、彼、お、れ、の、羊、と、牛、の、中、を、取、り、て、う、の、か、の、れ、お、來、れ、る、旅、人、の、た、め、お、膏、を、惜、み、て、か、の、貧、者、の、人、の、牧、羔、を、取、り、て、之、を、お、の、れ、に、來、れ、る、人、の、た、め、お、膏、た、り、ダ、ビ、デ、其、人、の、事、を、大、お、怒、り、て、ナ、タ、ン、お、い、ひ、け、る、ハ、エ、ホ、バ、ハ、生、く、誠、か、此、を、お、し、た、る、人、ハ、死、べ、き、な、り、且、彼、此、事、を、な、し、た、る、お、因、り、ま、た、憐、れ、ま、さ、り、し、お、よ、り、て、其、牧、羔、を、四、倍、お、な、し、て、償、ふ、べ、し、ナ、タ、ン、ダ、ビ、デ、お、い、ひ、け、る、ハ、汝、ハ、其、人、な、り、イ、ス、ラ、エ、ル、の、神、エ、ホ、バ、斯、い、ひ、た、ま、ふ、我、汝、お、膏、を、沃、い、で、イ、ス、ラ、エ、ル、の、王、と、な、し、我、汝、を、サ、ウ、ル、の、手、よ、り、救、ひ、い、だ、し、汝、お、汝、の、主、人、の、家、を、お、た、へ、汝、の、主、人、の、諸、妻、を、汝、の、懷、お、與、へ、ま、た、イ、ス、ラ、エ、ル、と、エ、ダ、の、家、を、汝、お、興、へ、たり、若、し、少、か、ら、ば、我、汝、に、種、々、の、物、を、増、く、て、へ、し、な、ら、ん、何、ぞ、汝、エ、ホ、バ、の、言、を、窺、ん、じ、て、其、目、の、女、へ、に、惡、を、な、せ、し、や、汝、刀、劍、を、も、て、へ、テ、人、ウ、リ、ヤ、を、殺、じ、其、妻、を、ど、り、て、汝、の、妻、と、お、せ、り、即、ち、ア、ン、モ、ン、の、子、孫、の、劍、を、も、て、彼、を、斬、殺、せ、り、汝、我、を、輕、ん、だ、し、て、へ、テ、人、ウ、リ、ヤ、の、妻、を、ど、り、汝、の、妻、と、し、た、る、に、因、て、何、時、ま、で、も、汝、の、家、を、離、る、と、ど、な、か、る、べ、し、エ、ホ、バ、斯、い、ひ、た、ま、ふ、

が面を見らるべからずと故にアサロム己の家を退きて王の面を觀ざりき 倅イラエルの中にアサロム
 4のどとく其美貌のために鬮られたる人かかり其足の跡より頭の頂にいたるまで彼に環繞するこ
 26とかしアサロム其頭を眞の時其頭の髪を剃る小王の權衡の二百シケルあり毎年の總おアサロム共
 27頭を剃り是ハ己の重なりて剃たるなり アサロムお三人の男子と一人のヌルといふ女子生れたり
 28ヌルの美女なり アサロム二年のわひたユルサレムにをりたれども王の顔を見ざりき 是により
 29てアサロム玉を遣さんどてヨアブを呼に遣はしけるが彼來ることを告げず再び遣せしかども來ること
 30を告げざりき アサロム其僕をひけるハ禮ハヨアブの田地ハ我の近くハありて其處ハ大麥あり往て
 31其火を捨てアサロム其僕を田地ハ火を捨てり ヨアブ起てアサロムの家來りてこれにひけ
 32るハ何故ハ爾の僕等田地ハ火を放たるや アサロムヨアブにひけるハ我人を爾ハ遣して此に來れ
 33我爾を王につかへさんと言ひ即ハ爾をして王に我何れたれハユルサレムよりきたりしや彼處に尙あらん我
 34ためハ反て善しと言えめんせり然ハ我今王の面を見ん若し我に罪あらハ玉我を殺すべし ヨアブ王
 35をひたりてこれ告たれハ王アサロムを召す彼王をひたりて王のまハお地に伏て拜せり王アサロム
 36お接吻す 此後アサロム己のために戰車と馬ならハ己のまへに驅る者五十八人を備たり アサ
 37ロム風く興きて門の邊の傍わち人の訴訟あがりて王に裁判を求めんとて來る時ハアサロム其人を呼て
 38いハ爾ハ何の邑れ者なるやと其人僕ハイラエルの其の支派の者ありといへハ アサロム其人ハわいふ
 39見ハ爾の事ハ善くまた正し然も爾に聴くべきハ王いまた立すと アサロム又嗚呼我を此地の士師と

9 聖〇六
 1 聖〇七
 2 聖〇八
 3 聖〇九
 4 聖一〇
 5 聖一一
 6 聖一二
 7 聖一三
 8 聖一四
 9 聖一五
 10 聖一六
 11 聖一七
 12 聖一八
 13 聖一九
 14 聖二〇
 15 聖二一
 16 聖二二
 17 聖二三
 18 聖二四
 19 聖二五
 20 聖二六
 21 聖二七
 22 聖二八
 23 聖二九
 24 聖三〇
 25 聖三一
 26 聖三二
 27 聖三三
 28 聖三四
 29 聖三五
 30 聖三六
 31 聖三七
 32 聖三八
 33 聖三九
 34 聖四〇
 35 聖四一
 36 聖四二
 37 聖四三
 38 聖四四
 39 聖四五
 40 聖四六
 41 聖四七
 42 聖四八
 43 聖四九
 44 聖五〇
 45 聖五一
 46 聖五二
 47 聖五三
 48 聖五四
 49 聖五五
 50 聖五六

なす者もが自然をバ凡て訴訟と公事ある者ハ我ハ我ハ來りて我之小公議を爲しわらんといふ 又人彼を
 拜せんとて近づて時ハ彼手をのどして其人を扶け之を接吻す アサロム見て王に裁判を求めんとて來
 1るイラエル人ハ是のどとくおせり斯アサロムイラエルの人々の心を取り 斯て四年の後アサ
 2ロム王をひけるハ請ふ我をして往てアサロム我嘗て立ちし驛を果ざしめよ 其ハ僕アサ
 3ロムに居し馬廐を立て若しエホバ誠ハ我をエルサレムハ攜歸りたまえと我エホバハ我事へんと言た
 4れハなりと王のれハひけるハ安然ハ往けと彼すおはち起てアサロムに往り 又かしてアサロム親
 5ふ者をイラエルの支派の中ハ徧く遣はして言せけるハ爾等嗚の音を聞ハアサロムハプロッにて王
 6となれりと思ふべしと 二百人の擧がれたる者ユルサレムよりアサロムとともによけり彼らハ何心か
 7くゆきて何事をもおらざりき アサロム犠牲をさぐる時にダビデの議官ギロムハヒトベルを其邑ギ
 8ロムより呼よせたり徧強くして民次第にアサロムに加はりぬ 爰ハ使者ダビデハ來りてイラエルの
 9人の心アサロムを退たかといふ ダビデおのまど其ハユルサレムに居る凡ての僕をひけるハ起て
 10よ我ら逃ハ然ハ亦バ我らアサロムより遁るくあたざるべし急ぎ往け恐らくハ彼急ぎて我らに退ハ
 11き我儕に書を蒙らせりをもて邑を撃ハ 王の僕等玉をひけるハ禮ハ僕等王わが主の選びとてをりて
 12爲ハ王いでゆき其全家これおまたけハ王十八の妻なる婦を遣して家をまらしむ 王いでゆき民みな
 13之を去たがハ彼等遠く家ハ息ぬり かれの僕等みな其傍に進みテレハとレハ人かよび彼を去たがハ
 14てアサロムきたれる六百人のガサハみな王のまハお進ぬり 時ハ王ガサハイツタハいひけるハ何ゆ
 15に爾もまた我らとともによけりや爾ハ入りて王とともによけりハ爾ハ外國人ホして移住て處をもとむる者なり

1 聖〇六
 2 聖〇七
 3 聖〇八
 4 聖〇九
 5 聖一〇
 6 聖一一
 7 聖一二
 8 聖一三
 9 聖一四
 10 聖一五
 11 聖一六
 12 聖一七
 13 聖一八
 14 聖一九
 15 聖二〇
 16 聖二一
 17 聖二二
 18 聖二三
 19 聖二四
 20 聖二五
 21 聖二六
 22 聖二七
 23 聖二八
 24 聖二九
 25 聖三〇
 26 聖三一
 27 聖三二
 28 聖三三
 29 聖三四
 30 聖三五
 31 聖三六
 32 聖三七
 33 聖三八
 34 聖三九
 35 聖四〇
 36 聖四一
 37 聖四二
 38 聖四三
 39 聖四四
 40 聖四五
 41 聖四六
 42 聖四七
 43 聖四八
 44 聖四九
 45 聖五〇
 46 聖五一
 47 聖五二
 48 聖五三
 49 聖五四
 50 聖五六

爾の昨日來れり我の今日が得るところに往くなれば豈爾をして我らとよまよしむべけんや
 爾の兄弟をも歸するべしねがはくは爾の思と眞實爾とくもにわ色 イツタニ王にてたへてひけるハ
 エホバの活王れが主の活く誠にて王れが主にかある處に坐すとも生死とも僕もまた其處小居るべし
 エホバの活王れが主の活く誠にて王れが主にかある處に坐すとも生死とも僕もまた其處小居るべし
 歸するべしねがはくは爾の思と眞實爾とくもにわ色 イツタニ王にてたへてひけるハ
 爾の兄弟をも歸するべしねがはくは爾の思と眞實爾とくもにわ色 イツタニ王にてたへてひけるハ
 爾の兄弟をも歸するべしねがはくは爾の思と眞實爾とくもにわ色 イツタニ王にてたへてひけるハ
 爾の兄弟をも歸するべしねがはくは爾の思と眞實爾とくもにわ色 イツタニ王にてたへてひけるハ

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

我爾の僕となるべし此まで爾の父の僕たりしてどく今また汝の僕とあるべしといはる爾わがためわ
 エホバの神を拜するにたらん 祭司ガドアヒヤタルを導くも彼處あるかからず是故に爾
 が王の家より聞たる事ほど多く祭司ガドアヒヤタルも告げし禮よかれらどももに彼處わら
 の二人の子即ちガドの子アヒヤタルとアヒヤタルの子ヨナタンとをあるかみ爾ら其聞たる事をどくく
 彼等の手より我に通ずべし 祭司ガドアヒヤタルの友ホシヤイと城邑にいたり爾將にアサロムハエルサ
 レムに入居たり
 二百載葡萄園一園地を賣き酒一甕を載きたりてアヒヤタルを迎ふ 王ガドにひけるハ此等ハ
 何なるかガドにひけるハ驢馬の乗るためパツと乾燥ハ少者の食ふため酒ハ野田困憊たる者
 の飲むためなり 王にひけるハ爾の主人の子ハ何處あるやガド王にひけるハエルサレムに止ま
 る其ハ彼イスラエルの家今日我父の國を我わかへさんと言をればなり 王ガドにひけるハ爾よエホバ
 セラの所有を惡く爾の所有をどかるべしガドにひけるハ我拜す王わが主よ我をして爾のまへに恩を蒙むら
 ためたまへ 却てアヒヤタル王ガドにひけるハ爾よ彼處よりサウルの家の族の者一人出きたる其名を
 メイといふガドの子なり彼出きたりて來りつと祖へり 又彼アヒヤタルとアヒヤタルの諸臣僕にひかひて石
 を投たり時兵士皆王の左右わたり 王に詛の中わすへり汝血を流す人よ爾邪なる人よ出さ
 れ出され 爾の代りて位に登りしサウルの家の血を凡てエホバに償ふ願したまへり エホバに國を爾の子ア
 サロムに付したまへり 爾と爾ハ血を流す人なるによりて禍患の中あるなり エホバの子アヒヤタル

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百